

錦城高校新聞

題字 井口 文章
再刊 第375号
印刷・発行 錦城高等学校新聞委員会
編集室 2022

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：好成績を残した部活動を取材
1年生情報集中講義を受講
二面：錦城が撮影地になった映画の
舞台挨拶を取材！

冬進の躍進、文化部

映研・将棋の全国大会出場が決定

この冬も多くの部活動が大会に出場し、好成績を収めた。その中で今回は映画研究部、文芸部、将棋部に受賞後の思いを取材した。

映研 11回目の全国へ

映画研究部が11月に行われた令和3年度第44回東京46回全国高等学校総合文化祭への出場を決めた。



「審査員を驚かせるような作品にしたいです」

都高等学校文化祭放送部門にて2部門で第1位を受賞し、来年度に東京都で行われる第46回全国高等学校総合文化祭への出場を決めた。

文芸部 今年度は部誌を2種類発行
文芸部が、第36回東京都高等学校文化祭芸術部門中央大会にて佳作賞を受賞した。部長の田中政成さん(2)は今年度の部誌について「夏に頑張ってきた成果が出て嬉しいです」と話す。



文芸部発行の部誌
左から『透夜』、『天舞』

修学旅行今年度も中止に

中止となった経緯

1月8日(土)に始業式が放送で行われ、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、2学年の修学旅行が中止となること

は中止の理由について「オミクロン株の感染力が強く、感染してしまった場合に、地域医療に大きな負担を掛けること」を強調した。



58回生修学旅行のしおり

規感染者数の改善が見られない可能性が高いこともこのタイミングで中止を決めた理由だという。「マスクの着用や手洗いなど基本的なことを再確認し、通常の学校生活を送ることで3学期を安全に乗り越えたい」と話す。

中止決定を受け生徒は生徒に呼びかけた。修学旅行が中止になったことを受けて2年生に話を聞いた。Aさんは「楽しみにしていたので、とても行きかかったです」と話す。

今学期も感染症対策忘れずに！
手洗い、消毒、黙食、マスク着用を徹底しよう！！



聖夜に響くハーモニイ

吹奏楽部
12月17日(金)、ルネこだいらにて吹奏楽部の第43回クリスマスコンサートが開催された。

重奏とクラリネット4重奏が披露された。第2部は「Classic Stage」で全3曲を披露し、吹奏楽のたのみの第一組曲「大きく3つのパートからなり、音の緩急、強弱をつけ、それぞれ違った雰囲気を感じさせていた。



ドリルステージの様子
息の合った動きで魅せる

第1部は「ドリルステージ」。これは本来錦城祭で披露するものだったが、今年度は規模縮小により行えず、ここで披露することになったという。「YMCA」の力強い音色を披露。また、曲間には司会の生徒によるMCもあり、会場の笑いを誘っていた。



顧問の神谷先生の熱唱
で会場を盛り上げる

第3部の「Dops Stage」では、部員全員がサンタの帽子をかぶって登場し、「交響組曲「ドラゴンクエスト」序曲」を披露。また、曲間には司会の生徒によるMCもあり、会場の笑いを誘っていた。

将棋部 男女ともに全国大会出場の快挙
令和3年度東京都高等学校文化祭将棋部門中央大会を勝ち抜き、全国大会への出場を決めた水谷祐太さん(1)と小沼紗紗さん(2)に話を聞いた。



大舞台での対局に向け意気込む

「赤鼻のトナカイ」から始まった。少人数での演奏のため、1人ひとりの技術が試される。全員が堂々と弾き、観客を引き込んだ。続いて、部員ホールでの演奏で緊張した全員での演奏に移る。

将棋部 男女ともに全国大会出場の快挙
令和3年度東京都高等学校文化祭将棋部門中央大会を勝ち抜き、全国大会への出場を決めた水谷祐太さん(1)と小沼紗紗さん(2)に話を聞いた。

「透夜」という部誌が発行された。部員が多くなり、1冊では全員の作品が収まりきれないため、2冊の発行に切り替えたそう。行事などで正式に部誌を配る際は「天舞」を配るといって、田中さんは「透夜」も色々な人に見てほしいです」と語る。

むらさき草
2022年、後悔ばかりだった。「こうしておけばよかった」、もしくは「しなればよかった」と思うことがよくあった。学期中は時間に追われる日々を送っていたためそのようなことを考える余裕はなかったが、冬休みになって思い返してみると、これまでにないくらい後悔する原因だと感じた。早くも年明け、2022年が始まった。時間の経過が年々早くなっているように感じる。それもそのはず、調べてみるところ我々には心理学用語で「ジヤネーの法則」というものが働いていることを知った。これは、年をとればほど時間が短く感じるという法則で、17歳の私は0歳、1歳のときと比べて1年を「17分の1」に感じているのだ。そんな世界を生きている中で、自分は1日、1分、1秒を大切に過ごしているのだからか、と思うようになった。そんなとき、ふとある言葉を思い出した。「毎日を後悔なく精一杯生きよう」。これは中学生のときに担任の先生から言われた言葉だ。これを機に私は1日の重みを意識するようになった。高生になり、いつの間にかその意識は薄れてしまっていた。人生やり直していい。だから「なんとなく」で決断したり、毎日生活が過ぎてしまっている。だから「なんだ」と改めて思う。楽しむときは全力で楽しみたい。そして、友達を遊びに誘ったり、自分の意見を言ったりするといった、何か行動を起こそうか迷った際、後悔しないために、行動した場合としない場合のどちらを選んだ場合も想像してみよう。後悔しないな」と感じた。方々を心に選ぶように思う。残り約1年となった錦城での高校生活。きつものすこい早さで時間は過ぎていくだろう。だから、まずは自分がいる環境で過ごす時間を一杯楽しみたい。そして「後悔のない選択」をしていこうと思う。(表)

